

CONTENTS

診療科紹介

[麻酔科]

術前から術後まで、周術期の全身管理を行っています

[乳腺外科]

時代に対応した診療体制を絶えず構築

[東洋医学科]

より良き臨床医の一端を

[口腔外科]

～密な医科歯科連携で一人ひとりにあった
MRONJ(薬剤関連顎骨壊死) 管理を～

TOPICS

看護部 / 東邦大学羽田空港第3ターミナルクリニック / 病児保育室

Toho University Omori Medical Center
Public Relations Magazine

VOL.
008

おかげさん



OKAGESAN

VOL. 008 2024 SPRING



“患者よし・地域よし・病院よし”の三方よしを目指し、
地域の皆様に大森病院の旬な情報を年4回お届けする広報誌「おかげさん」です。



東邦大学
医療センター

大森病院

麻酔科

教授 武田 吉正 たけだ よしまさ



術前から術後まで、 周術期の全身管理を行っています

東邦

大学医療セン
ター大森病
院麻酔科は

1965年4月に開設された伝統ある診療科です。麻酔科医は主に手術室、集中治療室、ペインクリニック、周術期センターで活動しています。

手術室における麻酔管理

年間10000件の手術症例の内、麻酔科が約6000件の全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔を担当しています。近年は、疼痛管理を目的にエコーガイド下神経ブロックを多数実施しています。エコーガイド下に目的とする神経までブロック針を進め選択的に局所麻酔薬を注入するので、安全かつ強力に術後疼痛を軽減することができます。私たちのゴールは次の3点です。

1. 患者さんが安全に手術を受ける。

2. 痛みを感じることなく術後を過ごす。

3. 周術期を通して全身状態を良好に保つことができるようにする。

これらの目的のため、周術期センターでは、歯科衛生士による口腔チェックや薬剤師による服薬チェックを実施しています。血液検査、心電図検査、呼吸機能検査、胸部レントゲン検査のデータと併せて麻酔科医が術前診察を行い、最適な麻酔法を考え患者さんに説明します。手術中はモニターを監視し全身管理を行い、術翌日には術後疼痛管理チームと病棟を訪問し、回復状態を確認しています。

集中治療室における疼痛・全身管理

救命救急センターや主科の医師と共に麻酔科医も集中治療室で患

者さんの治療に当たっています。これまででは日中の疼痛管理を中心に行っていましたが、2024年4月より当直業務を開始し、術後患者を中心に全身管理に携わっています。

ペインクリニック

石川慎一臨床教授（現 姫路赤十字病院麻酔科部長）が赴任し、2024年4月15日より月・火・金曜日午後完全予約制でペインクリニックを再開します。慢性痛を中心に痛み専門医の視点およびアプローチでの診断・治療を行います。画像診断を含めた原因検索と理論的な疼痛対策を目指します。神経ブロック治療では、X線透視や超音波診断装置を用いて安全かつ確実な治療を行います。痛みでお困りの方のご紹介をお待ちしております。

乳腺外科

教授 緒方 秀昭 おがた ひであき



時代に対応した診療体制を 絶えず構築

乳腺

内分泌外科
は、2003
年に全東邦大

学として初めて乳腺甲状腺外科に特化した診療科としてスタートしました。発足当初は年間50例ほどの手術件数でしたが、現在は年間外来患者数約14000人、入院患者数約2000人、手術件数約2600〜3000例で推移しています。これも地域の医療を担う諸先生方のご理解とご協力があったことと深く感謝しております。

この20年間で、がん医療は大きく様変わりしました。乳腺甲状腺領域では、新規分子標的治療薬が相次いで登場し、遺伝性乳癌に対する遺伝子スクリーニング検査が普及し、再発乳癌治療の方針決定に遺伝子パネル検査が導入されました。また化学療法の不妊対策として、治療前に受精卵を温存して治療後に妊娠を成立させることや、乳房

切除後の即時乳房再建など、癌の特性と患者希望に応じた個別治療を組み立てていくことが一般化しました。もはや癌医療は診療科単独で行うものではなく、多科多職種連携の下でのみ行い得るといって過言ありません。我々乳腺内分泌外科もこの流れに迅速に対応すべく、内分泌内科やリプロダクシオンセンターとの連携、婦人科との合同カンファレンス、医薬看合同カンファレンス、診療初期からの緩和医療の導入、遺伝カウンセリングなど多職種連携を通じて日常診療体制を絶えず変革し、新しい医療を取り入れてきました。

2022年4月より日本専門医機構が主導する新乳腺外科専門医制度が発足しました。新制度では、専門医研修は機構の認定した専門研修施設群においてのみ実施可能で、厳格な教育環境と治療水準が要求されることとなりました。東

邦大学大森病院乳腺内分泌外科はこのカリキュラムの基幹施設として認定されました。今後とも時代に対応した体制を絶えず構築し、診療内容の充実を図っていく方針です。今後とも皆様のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



東洋 医学科

准教授 田中 耕一郎 たなか こういちろう

より良き臨床医の一端を

現代医学もしっかりと

東洋医学科というと、異質な医学をやっている「職人的集団」のイメージをもたれるかもしれませんが、実際には、総合診療内科を含む、院内の専門各課との紹介受診も円滑に行っており、現代医学に関する精査、治療も並行して行っております。症状が多岐に及ぶ場合には、当科が足場になりつつ、専門各科のコンサルトを行うケースも多々みられます。

東洋医学のメンバーの基本領域は、内科（膠原病科含む）、心療内科、消化器外科、小児科産婦人科、耳鼻科、麻酔科と多彩で睡眠障害を専門としている医師も勤務しています。当科のメンバーは東洋医学に関しては、幅広くどのような疾患にも対応していますが、現代医学の専門領域に関連した患者を診る機会も多く、それぞれが独自の得意分野を有しています。

当科では医師以外に鍼灸師も働いています。一定の安全研修を受け、現代医学の知識も偏りなく有しており、お互いに連携し合う環境となっています。

心地よい鍼灸治療

針を刺すというと痛いのではないかと思います。しかし、鍼灸治療で使用する鍼は髪の毛ほどの太さでしなるほどに柔らかく、尖端は鈍となっていて、血管を貫通することも困難です。その刺激は、痛いどころか心地よく、施術中に眠ってしまう方もおられます。身体各部位の疼痛緩和の紹介が多いですが、睡眠障害、月経の諸問題、倦怠感などあらゆる体調不良に対応しています。

彷徨える患者の足場にも

以前よりも複雑な愁訴を抱える

患者が増えているように感じています。東洋医学には「個々の患者を理解すればするほど、よい治療ができる」という考え方があります。複雑にみえる症状も、漢方、鍼灸に東洋医学的な精神療法を加えつつ、一つ一つ皮を向くように、本来の病の種に近づいていくアプローチも行ってまいります。

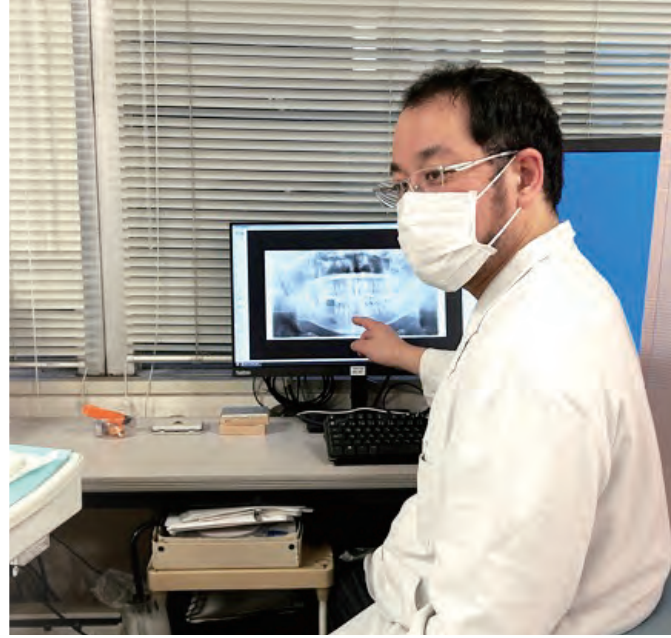
漢方の多剤併用

統計で10数パーセントは複数の医療機関からの漢方の多剤併用が行われているとされています。処方されている複数処方全体の像をみながら、調整させて頂くことが可能です。

当科に関しては敷居を低く、どのようなことでもお気軽にご相談頂ければ幸いです。



田中 耕一郎



口腔外科

助教 兼古晃輔 かねこ こうすけ 口腔外科専門医

密な医科歯科連携で

一人ひとりにあったMRONJ

(薬剤関連顎骨壊死)管理を

薬剤関連顎骨壊死とは

薬剤関連顎骨壊死 (medication-related osteonecrosis of the jaw: MRONJ) は骨粗鬆症や悪性腫瘍の骨転移に使用されるビスホスホネート製剤や抗RANKLモノクローナル抗体製剤などによる副作用の一つで、顎の骨が壊死してしまう疾患です。歯肉から骨が露出す

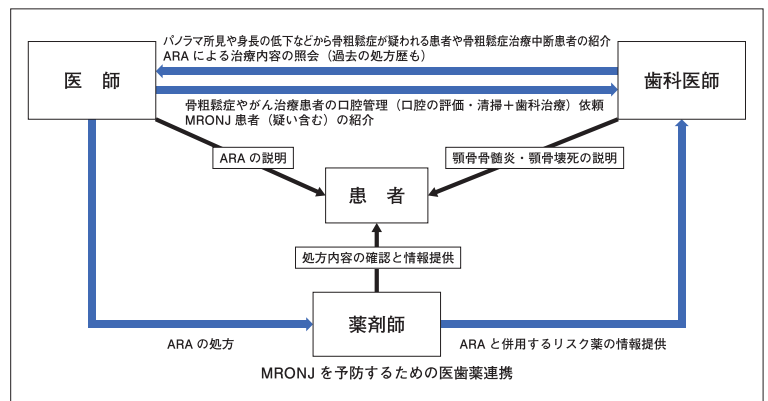
口腔外科外来 城南MRONJ外来

る、顎が痛む、腫れる、膿が出る、自然に顎が折れる、などの症状を呈する難治性疾患で、発症率は0.1〜5%未満と少ない疾患とされていますが、原因薬剤の普及に伴い患者数は年々増加しています。

2003年に世界で初めてビスホスホネート使用患者における顎骨壊死の報告がされました。日本では2010年に初のポジションペーパーが刊行され、2016年に日本骨粗鬆症学会や日本口腔外科学会など6学会合同のポジションペーパーが提案されましたが、比較的歴史の浅い疾患でまだ確立した治療法がなく、予防から医師と歯科医師、薬剤師で連携していくことが重要です。

当院では関節リウマチや自己免疫疾患など骨粗鬆症の原因となるステロイドを使用する患者さんや悪性腫瘍の患者さんが多数おり、当科では早くから口腔外科外来・城南MRONJ外来を立ち上げこの問題と向き合ってきました。主治医(医師)やかかりつけ歯科医師、口腔外科の連携が重要で、院内連携はもちろん、地域の歯科医師会や整形外科などの医師たちと城南地域のMRONJネットワークの構築、講演会や勉強会を行い、最新知見の共有や予防・治療・管理について意見交換を重ねてきました。これまでに170例を超える症例を経験し、50件以上の手術を行っており、現在も多くの患者さんを紹介していただいております。その治療の過程で得た治療や管理方法について積極的に学会発表を行い、治療方法の確立に向けて日々研鑽を続けています。

2023年7月改定のポジションペーパーでは積極的な手術治療が推奨されています。しかし、患者さんごとに背景が違い様々な問題があり



2023 ポジションペーパーより

ます。これまでの経験をもとに予防・治療・管理方法について主治医やかかりつけ歯科の先生たちと連携し、一人ひとりの患者さん個々に、密に向き合っていきたいと考えています。



兼古 晃輔

看護部

総合周産期母子医療センター
産婦人科病棟 看護師長
アドバンス助産師

内藤 智子
ないとう ともこ



チームで新しい家族の誕生を見守る 自分らしく赤ちゃんを迎えるために

大森

病院の総合周産期母子医療センターでは、基礎疾患を管理しながら妊娠継続の為に入院が必要な妊産婦、妊娠の切迫状態にある妊産婦他、胎児疾患が診断されている妊産婦の管理など、産科医だけでなく新生児科医にも協力を得て入院加療している妊産婦の集中ケアを行っています。時には、東京都外からも母体の搬送を受け入れ、到着早々緊急手術を行うことも少なくありません。また、大田区（城南地域）の産科医院やク

リニックとも連携し、分娩後の多量出血後の事例を受け入れ、合併症予防に努めるよう対応しています。

多くの妊産婦とその家族は、できるだけ健康で安全な妊娠・分娩を望まれており、予想外の母体状態の変化に不安、心配がぬぐえません。しかし、助産師が中心となり医師らと連携し妊産婦と会話を重ねることで、より早く信頼関係を築き現状を理解してもらおうようにつとめています。また、退院後の生活を見据えた関わりを入院早期から始めることで、助産師として個別性を考慮した保健指導を行い地域保健師へ情報を共有し、必要なケアが継続できるように取り組んでいることも、助産師のやりがいを感じているところです。

最近では、ローリスク妊産婦への無痛分娩の受け入れも拡大しました。また、大田区の産後ケア事業である宿泊延長型を産科病棟で受

け入れています。今春からは、早産や呼吸障害などで母の入院中に母児分離していた新生児の退院に合わせて産後ケア利用で母に再入院してもらい、母児同室で育児を実経験して児への愛着をより高めていただくことができると考え、産後ケア入院のシステムを拡大する予定です。

これら妊産婦への関わりは、助産師だけでは十分に安心、安全を提供することはできません。妊産婦の主体性を高めるように関わり、産科医や新生児科医、新生児治療室看護師、他職種など院内職員の協力を得て、助産ケアに専念することができています。古きよき産科病棟の改修計画も始まりました。チームで新しい家族の誕生を見守ることができる新化した産科病棟を作らなければならないと思っています。

東邦大学 羽田空港 第3ターミナルクリニック

所長 原 規子 はらのりこ



空の玄関口、羽田で 皆様の安心な旅をサポート

東邦

大学羽田空港
第3ターミナル
クリニック

は2011年、東京国際空港（羽田空港）第3ターミナルビルの開設とともに同ターミナル1階で開業しました。

空の玄関ともいえる国際線ターミナルで朝9時から夜23時まで365日休みなく診療を行っています。（常勤医3人、非常勤医、看護師4名、事務4名）

日本から海外へ、または海外から日本に訪れる渡航者の健康をサポートするため、当クリニックではさまざまな医療サービスを提供しています。具合の悪い渡航者の診療はもちろんのこと、飛行機での旅に特有な体調の変化に熟知した医療スタッフが、渡航前の健康相談や渡航に必要な診断書などの発行を行っています。最近ではオンライン診療を利用した渡航前の健康

相談やトラベルワクチン接種など多岐にわたる取り組みを行なっています。空港構内や機内で容体が急変した方のもとに出勤して救急処置を行うこともあります。また航空機事故災害の際には第2ターミナルの東邦大学羽田空港クリニックと協力し、国交省、警視庁、東京消防庁など国の機関、地域医師会の先生方、DMAT（災害医療派遣チーム）、各航空会社と連携し被災者の救助にあたる医療班としての役割を担っています。

また、私達は旅行者だけでなく、空港で働く人たちの健康も大切にしています。空港関連職員の方々の健康診断やワクチン接種を通じて、空港全体の健康維持に携わっています。

当クリニックには日々、様々な国や地域からの渡航者が来院されます。特にコロナ禍が終息した昨今は海外からのインバウンド需要増加

に伴い外国の方の受診が増えています。日本ではまだまだ飛行機での渡航はレジャーのイメージが強いかもしれませんが。しかし国際的な生活をする方にとって、仕事や海外に住むご家族の訪問など飛行機の旅は日常の交通手段の延長線上にあります。コロナ禍の終息に伴い今後さらに利用者増加が見込まれる中、空の出入り口でしっかりと皆さんの健康をサポートできるようスタッフ一同尽力して参ります。

病児保育室

病児保育室 室長 渡邊 美砂

ひまわりはお子さまが病気の時にも安心・安全に配慮し笑顔をサポートいたします！

東邦大学病児保育室「ひまわり」は、病気の時に通常の保育園・幼稚園や学校などに通えず自宅で看ることができないお子さんをお預かりしています。2010年1月に開設した当初、大田区内には5か所しかない貴重な施設でした。（現在は11か所。大田区HPより）。ひまわりでは、生後4か月から小学校3年生までの乳幼児・児童が1日5名まで、東邦大学3医療センターに勤務しているすべての職員にご利用いただけます。小規模で

搾乳室



公的な施設ではありませんが、2024年1月までのべ6487人のご利用がありました。小児科医が室長を務め、看護師1名、保育士3名のスタッ

フすべてが保育資格を有しております。急性期のお子さんや、隔離が必要な疾患も対応可能で、昼食とおやつは病院の栄養部から（アレルギー対応可）提供を受けています。2011年には搾乳室・相談室も併設し、職員の授乳や搾乳、育児相談にも対応しております。また、病児の利用がない日は、スタッフは東邦大学保育園で保育を担当し、園児と顔見知りになっておくことで、具合が悪い時にひまわりに来ても子どもたちが安心して過ごせるように配慮しております。楽しい保育の様子を、保育士ブログ「ひまわりの部屋」でご覧下さい。https://www.himawari.toho-u.ac.jp/blog/index.html



INFORMATION

東邦大学医療センター
大森病院

Omori
Ota
Tokyo



https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/

初診受付時間

月曜日～土曜日（下記休診日を除く）
8:30～11:00（一部を除く）

休診日

第3土曜日・日曜日・祝日・
年末年始（12月29日～1月3日）

臨時診療日

7月15日（月・祝）・9月16日（月・祝）・
11月4日（月・祝）
平日診療体制といたしますが、診療予約のない方は「休日加算」を適用いたします

編集後記

おかげさん vol.8 を最後までお読みいただきありがとうございます。新緑・開花の訪れと共に新年度が始まり、皆さまにおかれましては、新しい環境・挑戦など、新鮮な気持ちで春を迎えられていることかと思われまふ。当院におきまして新しい職員を迎え、患者に優しく安全で質の高い地域医療のため、実践に向けた研修に勤しんでいるのを目の当たりにしております。広報誌「おかげさん」におきまして、新しいアイデアを出し合い、心待ちにされるような内容を今年度もお届けしたいと考えておりますので、どうぞ楽しみにお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。新年度を迎えるにあたり診察券のデザインにつきましても、カラフルな東邦ブランドマークを基調とした内容に変更となります。旧デザインの診察券もご利用可能となっておりますが、新デザインへの変更も無償にて承っております。お気軽に外来受付（A1・H1）窓口までお申し出くださいませ。今年度もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。おかげさん。（H・M）

